徳島県立中央病院
治験に係る標準業務手順書
(徳島県立中央病院治験事務手続要綱)

本手順書の構成

第1章 目的と適用範囲

第1条 (目的と適用範囲)

第2条 (用語)

第2章 医療機関の長(病院長)の業務

第3条 (病院長の責務)

第4条 (治験依頼の申請等)

第5条 (治験実施の了承等)

第6条 (治験実施の契約等)

第7条 (治験の継続)

第8条 (治験実施計画書等の変更)

第9条 (治験実施計画書からの逸脱)

第10条 (重篤な有害事象の発生)

第11条 (安全性に関する情報の入手)

第12条 (治験の中止、中断及び終了)

第13条 (直接閲覧)

第14条 (異議申し立て)

第3章 治験審査委員会

第15条 (治験審査委員会及び治験審査委員会事務局の設置)

第4章 治験責任医師の業務

第16条 (治験責任医師の要件)

第17条 (治験責任医師の責務)

第18条 (被験者からの同意の取得)

第19条 (被験者に対する医療)

第20条 (治験実施計画書からの逸脱等)

第5章 治験薬等の管理

第21条 (治験薬の管理)

第6章 治験事務局

第22条 (治験事務局の設置及び業務)

第7章 業務の委託

第23条 (業務委託の契約)

第8章 記録の保存

第24条 (記録の保存責任者)

第25条 (記録の保存期間)

書式

「治験の依頼等に係る統一書式（医政研発0710第4号・薬生薬審発0710第2号・薬生機審発0710第2号：平成30年7月10日）」（最新の一部改正までを含む）に準ずる。

「参考書式」については、適宜協議し変更及び修正を行うことができる。また、別書式にて作成することも可とする。

治 験 の 原 則

治験は、次に掲げる原則に則って実施されなければならない。

1. 治験は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則及びG C P省令等を遵守して行われなければならない。
2. 治験を開始する前に、個々の被験者及び社会にとって期待される利益と予想される危険及び不便とを比較考量するものとする。期待される利益によって危険を冒すことが正当化される場合に限り、治験を開始し継続すべきである。
3. 被験者の人権、安全及び福祉に対する配慮が最も重要であり、科学と社会のための利益よりも優先されるべきである。
4. 治験薬、治験機器（以下「治験薬等」という）に関して、その治験の実施を支持するのに十分な非臨床試験及び臨床試験に関する情報が得られていなければならない。
5. 治験は科学的に妥当でなければならず、治験実施計画書にその内容が明確かつ詳細に記載されていないなければならない。
6. 治験は、治験審査委員会が事前に承認した治験実施計画書を遵守して実施しなければならない。
7. 被験者に対する医療及び被験者のためになされる医療上の決定に関する責任は、医師又は歯科医師が常に負うべきである。
8. 治験の実施に関与する者は、教育、訓練及び経験により、その業務を十分に遂行しうる要件を満たしていなければならない。
9. 全ての被験者から、治験に参加する前に、自由意思によるインフォームド・コンセントを得なければならない。
10. 治験に関する全ての情報（媒体を問わない）は、正確な報告、解釈及び検証が可能なように記録し、取扱い、及び保存しなければならない。
11. 被験者の身元を明らかにする可能性のある記録は、被験者のプライバシーと秘密の保全に配慮して保護しなければならない。
12. 治験薬の製造、取扱い、保管及び管理は、治験薬GMP等に準拠して行うものとする。治験機器の製造、取扱い、保管及び管理は、医療機器GMP省令等を遵守して行うものとする。治験薬等は治験審査委員会が事前に承認した治験実施計画書を遵守して使用するものとする。
13. 治験の被験者保護及び治験結果の信頼性確保に必要な不可欠な局面の質を保証するための手順を示したシステムが運用されなければならない。
14. 治験に関連して被験者に健康被害が生じた場合には、過失によるものであるか否かを問わず、被験者の損失は適切に補償されなければならない。その際、因果関係の証明等について被験者に負担を課することがないようにしなければならない。

第1章 目的と適用範囲

(目的と適用範囲)

第1条 本手順書は、厚生省令第28号(G C P省令：平成9年3月27日)及びそれに関連する省令並びに通知等、医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令(平成17年厚生労働省令第36号)及びその関連通知(以下「医療機器G C P省令」という))に基づいて、治験の実施に必要な手続きと運営に関する手順及び記録の保存方法を定めるものである。

- 2 本手順書は、医薬品、医療機器の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請(以下「承認申請」という)の際に提出すべき資料の収集のために行う治験に対して適用する。
- 3 製造販売後臨床試験に対しては、G C P省令第56条又は医療機器G C P省令第76条に準じ、「治験」等とあるのを「製造販売後臨床試験」等と読み替えることにより、本手順書を適用する。

第2条 本手順書において用いられる用語の定義は、G C P省令、医療機器G C P省令に定めるところによる。

第2章 医療機関の長(病院長)の業務

(病院長の責務)

第3条 病院長は、治験に係る業務に関する手順書を作成しなければならない。

- 2 病院長は、当院における治験がG C P省令、医療機器G C P省令、治験実施計画書、治験の契約書及び本手順書に従って適正かつ円滑に行われるよう必要な措置を講じなければならない。
- 3 病院長は、被験者の秘密の保全が担保されるよう必要な措置を講じなければならない。

(治験依頼の申請等)

第4条 病院長は、事前に治験責任医師より提出された治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)に基づき、治験関連の重要な業務の一部を分担させる者の了承を行う。病院長は了承した治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)を、治験責任医師に提出する。病院長又は治験責任医師は、治験依頼者に治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)を提出する。

- 2 病院長は、治験責任医師と治験依頼者との間で治験に関する文書による合意が成立した後、治験責任医師及び治験依頼者に治験依頼書(書式3)、治験責任医師の履歴書(書式1)、治験実施計画書等の審査に必要な資料を提出させるものとする。
- 3 前項記載の審査に必要な資料は、次のとおりとする。

(1) 治験実施計画書(治験責任医師と治験依頼者が合意したもの(ただし、治験実施計画

書の分冊を作成しており、当該分冊に記載された当院以外の実施医療機関に特有の情報を改訂する場合を除く)

- (2) 治験薬概要書又は治験機器概要書（製造販売後臨床試験の場合は当該医薬品、医療機器の添付文書等）
- (3) 治験責任医師と治験依頼者が合意した症例報告書の見本（治験実施計画書において、症例報告書に記載すべき事項が十分に読み取れる場合は、当該治験実施計画書を提出することでよい）
- (4) 説明文書及び同意文書
- (5) 治験責任医師がGCP省令第42条に規定する要件を満たすことを証明した履歴書(書式1)及びその他の文書並びに治験分担医師の氏名を記載したリスト（ただし、調査審議に必要な場合には、治験分担医師の履歴書）
- (6) 被験者の安全等に係る報告
- (7) 被験者の健康被害に対する補償に関する資料
- (8) 被験者への支払いに関する資料(支払いがある場合)
- (9) 予定される治験費用に関する資料
- (10) 被験者の募集手順(広告等)に関する資料(募集する場合)
- (11) その他治験審査委員会が必要と認める資料

(治験実施の了承等)

第5条 病院長は、治験責任医師及び治験依頼者に対して治験の実施を了承する前に、治験審査依頼書(書式4)及び本手順書第3条第2項に規定する治験実施計画書等の審査の対象となる文書を治験審査委員会に提出し、治験の実施の適否について治験審査委員会の意見を求めるものとする。

- 2 病院長は、治験審査委員会が治験の実施を承認する決定を下し、その旨を通知してきた場合は、これに基づく病院長の指示が治験審査委員会の決定と同じときには、治験審査結果通知書(書式5)により、病院長の指示が治験審査委員会の決定と異なるときには、治験審査結果通知書(書式5)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(参考書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。
- 3 病院長は、治験審査委員会が治験実施計画書、症例報告書の見本、説明文書及び同意文書並びにその他の手順について何らかの修正を条件に治験の実施を承認する決定を下し、その旨を通知してきた場合は、これに基づく病院長の指示及び決定を治験審査結果通知書(書式5)により治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。
- 4 病院長は、前項の指示により治験責任医師及び治験依頼者が治験実施計画書等を修正した場合には、治験実施計画書等修正報告書(書式6)及び該当する資料を提出させ、病院長の指示どおり修正したことを確認するものとする。
- 5 病院長は、治験審査委員会が治験の実施を却下する決定を下し、その旨を通知してきた場

合は、治験の実施を了承することはできない。病院長は、治験の実施を了承できない旨を、治験審査結果通知書(書式5)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

- 6 病院長は、治験依頼者から治験審査委員会の審査結果を確認するために審査に用いられた治験実施計画書、症例報告書等の文書の入手を求める旨の申し出があった場合には、これに応じなければならない。

(治験実施の契約等)

第6条 病院長は、治験審査委員会の意見に基づいて治験の実施を了承した後、治験依頼者と治験の受託に関する契約を文書により締結し、双方が記名捺印又は署名し、日付を付すものとする。

- 2 治験責任医師は、契約内容の確認のため治験の受託に関する契約の文書に記名捺印又は署名し、日付を付すものとする。

- 3 病院長は、治験審査委員会が修正を条件に治験の実施を承認した場合には、本手順書第5条第4項の治験実施計画書等修正報告書(書式6)により修正したことを確認した後に、治験の受託に関する契約を文書により締結するとともに、治験責任医師は本条前項に従うものとする。

- 4 治験の受託に関する契約の内容を変更する際は、必要に応じ本条第1項に準じて覚書等の文書を締結するとともに、治験責任医師は本条第2項に従うものとする。

(治験の継続)

第7条 病院長は、実施中の治験において少なくとも年1回、治験責任医師に治験実施状況報告書(書式11)を提出させ、治験審査依頼書(書式4)及び治験実施状況報告書(書式11)の写しを治験審査委員会に提出し、治験の継続の適否について治験審査委員会の意見を求め本手順書第5条に準じて治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

- 2 病院長は、治験審査委員会が実施中の治験の継続審査等において、治験審査委員会が既に承認した事項の取消し(治験の中止又は中断を含む)の決定を下し、その旨を通知してきた場合は、治験審査結果通知書(書式5)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

- 3 病院長は、治験依頼者から治験審査委員会の継続審査等の結果を確認するために審査に用いられた治験実施計画書、症例報告書等の文書の入手を求める旨の申し出があった場合には、これに応じなければならない。

(治験実施計画書等の変更)

第8条 病院長は、治験期間中、治験審査委員会の審査対象となる文書が追加、更新又は改訂された場合は、治験責任医師及び治験依頼者から治験に関する変更申請書(書式10)とそれらの当

該文書のすべてを速やかに提出させるものとする。ただし、治験実施計画書の分冊を作成しており、当該分冊に記載された当院以外の実施医療機関に特有の情報を改訂する場合及び症例報告書の見本のレイアウト（電子情報処理組織の利用による症例報告書にあつてはその仕様）の変更を行う場合を除くものとする。

- 2 病院長は、治験責任医師又は治験依頼者より、治験に関する変更申請書(書式10)を入手した場合には、治験審査依頼書(書式4)及び治験に関する変更申請書(書式10)の写しを治験審査委員会に提出し、治験の継続の適否についての治験審査委員会の意見を求め本手順書第5条に準じて治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(治験実施計画書からの逸脱)

第9条 病院長は、治験責任医師より被験者の緊急の危険を回避するため、その他医療上やむを得ない理由により緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する報告書(書式8)を入手した場合は、治験審査依頼書(書式4)及び緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する報告書(書式8)の写しを治験審査委員会に提出し、治験の継続の適否についての治験審査委員会の意見を求め本手順書第5条に準じて治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。また、病院長は治験依頼者の合意を緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する通知書(書式9)で得なければならない。さらに、入手した緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する通知書(書式9)の写しを治験責任医師に提出するものとする。

- 2 病院長は、治験責任医師より治験の実施に影響を与えるもので、被験者に対する精神的及び身体的侵襲の可能性があり、被験者への危険を増大させる変更について報告書を入手した場合には、その写しを治験審査委員会に提出し、治験の継続の適否についての治験審査委員会の意見を求め本手順書第5条に準じて治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(重篤な有害事象の発生)

第10条 病院長は、治験責任医師より重篤な有害事象に関する報告書(書式12)、重篤な有害事象に関する報告書(書式13)、重篤な有害事象及び不具合に関する報告書(書式14)又は重篤な有害事象及び不具合に関する報告書(書式15)を入手した場合は、治験審査依頼書(書式4)とともに当該報告書の写しを治験審査委員会に提出し、治験の継続の適否について治験審査委員会の意見を求め本手順書第5条に準じて治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(安全性に関する情報の入手)

第11条 病院長は、治験依頼者より安全性情報等に関する報告書(書式16)を入手した場合は、治験審査依頼書(書式4)及び安全性情報等に関する報告書(書式16)の写しを治験審査委員会に

提出し、治験の継続の適否についての意見を求め、本手順書第5条に準じて治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

なお、被験者の安全又は当該治験の実施に影響を及ぼす可能性のある重大な情報には、以下のものが含まれる。

- (1) 他の医療機関で発生した重篤で予測できない副作用
- (2) 重篤な副作用、不具合又は当該治験薬等の使用による感染症の発生数、発生頻度、発生条件等の発生傾向が治験薬概要書、治験機器概要書から予測できないもの
- (3) 死亡又は死亡につながるおそれのある症例のうち、副作用によるもの又は当該治験薬等の使用による感染症によるもの
- (4) 副作用、不具合又は当該治験薬等の使用による感染症の発生数、発生頻度、発生条件等の発生傾向が著しく変化したことを示す研究報告
- (5) 治験の対象となる疾患に対し効能又は効果を有しないことを示す研究報告
- (6) 副作用、不具合又は感染症によりがんその他の重大な疾病、障害又は死亡が発生するおそれがあることを示す研究報告
- (7) 当該治験薬等に係わる製造販売の中止、回収、廃棄その他の保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するための措置の実施

また、副作用等症例の発現がない年次報告についても同様に、治験依頼者に安全性情報等に関する報告書(書式16)の提出を求め、治験審査委員会で審査後、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(治験の中止、中断及び終了)

第12条 病院長は、治験依頼者から治験の中止又は中断、若しくは当該治験の成績が承認申請書に添付されないことを知った旨を開発の中止等に関する報告書(書式18)にて入手した場合は、治験責任医師及び治験審査委員会に対し、速やかに開発の中止等に関する報告書(書式18)により通知するものとする。

2 病院長は、治験責任医師が治験を終了又は中止又は中断し、その旨を治験終了(中止・中断)報告書(書式17)により報告してきた場合は、治験審査委員会及び治験依頼者に対し、速やかに治験終了(中止・中断)報告書(書式17)により通知するものとする。

(直接閲覧)

第13条 病院長は、治験依頼者が実施するモニタリング及び監査、並びに治験審査委員会及び国内外の規制当局による調査を受け入れるものとする。これらの場合には、モニター、監査担当者、治験審査委員会又は国内外の規制当局の求めに応じ、原資料等のすべての治験関連記録を直接閲覧に供するものとする。

2 病院長は、直接閲覧を実施する者に対し、原則として実施日の1週間前までに直接閲覧実施連絡票(参考書式2)に記載の上、治験事務局に提出するよう求める。

- 3 病院長は、前項の申請書の内容を許可する場合は、直接閲覧実施連絡票（参考書式2）の確認欄を治験事務局を通じ直接閲覧を実施する者に対し発行する。
- 4 病院長は、モニタリングの結果、GCP、治験実施計画書及び手順書からの逸脱事項を確認した場合には、治験責任医師及び必要に応じて病院長に直ちに伝えるよう求める。

（異議申し立て）

第14条 病院長は、治験責任医師及び治験依頼者から治験審査委員会の審査結果に対する異議申し立てがあった場合は、速やかに異議申し立て書を提出させ、その写しを治験審査委員会へ提出し異議申し立てを行うものとする。なお、異議申し立て書の書式は問わない。

第3章 治験審査委員会

（治験審査委員会及び治験審査委員会事務局の設置）

第15条 病院長は、治験を行うことの適否その他の治験に関する調査審議を行わせるため、治験審査委員会を当院に設置する。

- 2 病院長は、治験審査委員会の委員を文書により指名し、治験審査委員会と協議の上、治験審査委員会の運営の手續きに関する手順及び委員名簿を作成する。なお、治験依頼者及び他の医療機関の長から治験審査委員会の標準業務手順書及び委員名簿の提示を求められた場合には、これに応ずるものとする。
- 3 病院長は、自らが設置した治験審査委員会に出席することはできるが、委員になること並びに審議及び採決に参加することはできない。
- 4 病院長は、治験審査委員会の業務の円滑化を図るため、治験審査委員会の運営に関する事務及び支援を行う者を文書により指名し、治験審査委員会事務局を設置するものとする。

第4章 治験責任医師の業務

（治験責任医師の要件）

第16条 治験責任医師は、以下の要件を満たさなくてはならない。

- （1）教育・訓練及び経験によって、治験を適正に実施しうる者でなければならない。
- （2）治験実施計画書、最新の治験薬概要書及び治験機器概要書、製品情報及び治験依頼者が提供するその他の文書に記載されている治験薬等の適切な使用法に十分精通していなければならない。
- （3）医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第14条第3項及び第80条の2に規定する基準並びにGCP省令を熟知し、これを遵守出来る者で

なくてはならない。

- (4) 治験責任医師は、治験依頼者によるモニタリング及び監査並びに治験審査委員会並びに国内外の規制当局による調査を受け入れ、また、モニター、監査担当者、治験審査委員会又は国内外の規制当局の求めに応じて、原資料等のすべての治験関連記録を直接閲覧に供することができなければならない。
- (5) 募集期間内に必要数の適格な被験者を集めることが可能であることを過去の実績等により示すことができなければならない。
- (6) 治験依頼者と合意された期間内に治験を適正に実施し、終了するに足る時間を有していなければならない。
- (7) 治験を適正かつ安全に実施するため、治験の予定期間中に十分な数の治験分担医師及び治験協力者等の適格なスタッフを確保でき、また適切な設備を利用できなければならない。

(治験責任医師の責務)

第17条 治験責任医師は以下の事項を行う。

- (1) 教育・訓練及び経験によって、治験を適正に実施しうることを証明する最新の履歴書(書式1)及びその他の文書並びに治験分担医師を置く場合には、当該治験分担医師の氏名を記載したリストを病院長及び治験依頼者に提出する。ただし、調査審議に必要な場合には、当該治験分担医師の履歴書を提出する。
- (2) 治験関連の重要な業務の一部を治験分担医師又は治験協力者に分担させる場合には、治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)を作成し、予め病院長に提出し、その指名を受けなければならない。
- (3) 治験分担医師及び治験協力者等に、治験実施計画書、治験薬及び各人の業務について十分な情報を与え、指導及び監督をしなければならない。
- (4) 治験実施計画書の被験者の選択・除外基準の設定及び治験を実施する際の個々の被験者の選定に当たっては、人権保護の観点から及び治験の目的に応じ、健康状態、症状、年齢、性別、同意能力、治験責任医師等との依存関係、他の治験への参加の有無等を考慮し、治験に参加を求めることの適否を慎重に検討すること。
- (5) 同意能力を欠く者については、当該治験の目的上、被験者とすることがやむを得ない場合を除き、原則として被験者とししないこと。
- (6) 社会的に弱い立場にある者を被験者とする場合には、自由意思による同意の取得に特に慎重な配慮を払わなくてはならないこと。
- (7) 治験依頼者から提供される治験実施計画書案、症例報告書の様式案及び最新の治験薬概要書及び治験機器概要書その他必要な資料及び情報に基づき治験依頼者と協議し、当該治験を実施することの倫理的及び科学的妥当性について十分検討した後、治験依頼者と文書により合意すること。治験実施計画書及び症例報告書の様式が改訂される場合

も同様である。

ただし、治験実施計画書の分冊を作成しており、当該分冊に記載された当院以外の実施医療機関に特有の情報を改訂する場合及び症例報告書の見本のレイアウト（電子情報処理組織の利用による症例報告書にあってはその仕様）の変更を行う場合を除く。

- (8) 治験実施の申請をする前に被験者から治験の参加に関する同意を得るために用いる説明文書を作成する。また、作成にあたっては、必要に応じ治験依頼者から予め作成に必要な資料の提供を受けることができる。
- (9) 治験実施前及び治験期間を通じて、治験審査委員会の審査の対象となる文書のうち、治験責任医師が提出すべき文書を最新のものにすること。当該文書が追加、更新又は改訂された場合は、そのすべてを速やかに病院長に提出すること。
- (10) 治験審査委員会が治験の実施又は継続を承認し、又は何らかの修正を条件に治験の実施又は継続を承認した場合は、これに基づく病院長の指示及び決定が治験審査結果通知書(書式5)にて通知された後に、その決定に従って治験を開始又は継続すること。また、治験審査委員会が実施中の治験に関して承認した事項を取消し(治験の中止又は中断を含む)、これに基づく病院長の指示及び決定が治験審査結果通知書(書式5)にて通知された場合には、その決定に従うこと。ただし、治験審査委員会の結果に対し異議申し立てがある場合には、速やかに異議申し立て書により、病院長を通じて行うこと。なお、異議申し立て書の書式は問わない。
- (11) 治験審査委員会が当該治験の実施を承認し、これに基づく病院長の指示及び決定が治験審査結果通知書(書式5)で通知され、さらに治験依頼者と病院長との間で当該治験に関する契約が締結されたことが確認できるまで被験者を治験に参加させてはならない。
- (12) 本手順書第20条第1項で規定する場合を除いて治験実施計画書を遵守し治験を実施すること。
- (13) 治験薬等を承認された治験実施計画書を遵守した方法のみで使用する。また、治験薬等の正しい使用法を各被験者に説明又は指示し、各被験者が説明された指示を正しく守っているか否かを当該治験において適切な間隔で確認すること。
- (14) 実施中の治験において、少なくとも年1回、病院長に治験実施状況報告書(書式11)を提出すること。
- (15) 治験実施中に重篤な有害事象が発生した場合は、重篤で予測できない副作用を特定した上で速やかに病院長及び治験依頼者に重篤な有害事象に関する報告書(書式12)、重篤な有害事象に関する報告書(書式13)、重篤な有害事象及び不具合に関する報告書(書式14)又は重篤な有害事象及び不具合に関する報告書(書式15)で報告すること。この場合において、治験依頼者、病院長又は治験審査委員会から更に必要な情報の提供を求められた場合はこれに応じなければならない。
- (16) 治験責任医師は、治験実施計画書の規定に従って正確な症例報告書を作成し、記

名捺印又は署名の上、治験依頼者に提出する。また治験分担医師が作成した症例報告書については、その内容を点検し問題がないことを確認した上で記名捺印又は署名し、治験依頼者に提出する。症例報告書のデータが原資料と何らかの矛盾がある場合、治験責任医師はその理由を説明する記録を作成して、治験依頼者に提出するとともにその写しを保存しなければならない。治験責任医師は、症例報告書の変更又は修正に当たり治験依頼者から提供された手引きに従わなければならない。症例報告書のいかなる変更又は修正にも、日付の記入及び捺印又は署名がされ、重大な変更又は修正については説明が記されなければならない。また、変更又は修正は当初の記載内容を不明瞭にするものであってはならない。なお、症例報告書は修正前、修正後いずれに関しても、写しを保存すること。

- (17) 治験が何らかの理由で中止又は中断された場合、あるいは自らが治験を中断し、又は中止した場合は、被験者に速やかにその旨を通知し、被験者に対する適切な治療、その他必要な措置を講じること。また自ら治験を中断し、又は中止した場合にあっては病院長に治験終了（中止・中断）報告書(書式17)を提出すること。
- (18) 治験を終了したときは、病院長にその旨及びその結果の概要を治験終了（中止・中断）報告書(書式17)により報告しなければならない。

(被験者からの同意の取得)

第18条 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者が治験に参加する前に、被験者に対して説明文書及び同意文書を用いて十分に説明し、被験者から治験への参加について自由意思による同意を文書により得るものとする。

- 2 同意文書には、説明を行った治験責任医師又は治験分担医師並びに被験者が記名捺印又は署名し、各自日付を記入するものとする。なお、治験協力者が補足的な説明を行った場合には、当該治験協力者も記名捺印又は署名し日付を記入するものとする。
- 3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者が治験に参加する前に、前項の規定に従って記名捺印又は署名と日付が記入された説明文書及び同意文書の写しを被験者に渡さなければならない。また、被験者が治験に参加している間に、説明文書が改訂された場合は、その都度新たに本条第1項及び第2項に従って同意を取得し、記名捺印又は署名と日付を記入した説明文書及び同意文書の写しを被験者に渡さなければならない。
- 4 治験責任医師、治験分担医師及び治験協力者は、治験への参加又は治験への参加の継続に関し、被験者に強制又は不当な影響を及ぼしてはならない。
- 5 説明文書及び同意文書、説明に関して口頭で提供される情報には、被験者に権利を放棄させるかそれを疑わせる語句、又は治験責任医師、治験分担医師、治験協力者、医療機関並びに治験依頼者の法的責任を免除するかそれを疑わせる語句が含まれてはならない。
- 6 説明文書及び同意文書、口頭による説明には、被験者が理解可能で、可能な限り非専門的な言葉が用いられていなければならない。

- 7 治験責任医師又は治験分担医師は、同意を得る前に、被験者が質問をする機会と、治験に参加するか否かを判断するのに十分な時間を与えなければならない。その際、当該治験責任医師、治験分担医師又は補足的説明者としての治験協力者は、すべての質問に対して被験者が満足するよう答えなければならない。
- 8 治験に継続して参加するか否かについての被験者の意思に影響を与える可能性のある情報が得られた場合には、治験責任医師又は治験分担医師は、当該情報を速やかに被験者に伝え、治験に継続して参加するか否かについて被験者の意思を確認しなければならない。この場合、当該情報が被験者に伝えられたことを文書に記録しなければならない。
- 9 被験者の同意に関連し得る新たな重要な情報が得られた場合には、治験責任医師は、速やかに当該情報に基づき説明文書及び同意文書を改訂し、予め治験審査委員会の承認を得なければならない。また、治験責任医師又は治験分担医師は、すでに治験に参加している被験者に対しても当該情報を速やかに伝え、治験に継続して参加するか否かについて、被験者の意思を確認するとともに、予め治験審査委員会の承認を得た説明文書及び同意文書を用いて改めて説明し、治験への参加の継続について被験者から自由意思による同意を文書で得なければならない。
- 10 被験者の同意取得が困難な場合、非治療的な内容の治験を実施する場合、緊急状況下における救命的な内容の治験の場合及び被験者が同意文書等を読めない場合については、GCP省令第50条第2項から第4項、第52条第3項及び第4項並びに第55条を遵守する。

(被験者に対する医療)

第19条 治験責任医師は、治験に関する医療上のすべての判断に責任を負うものとする。

- 2 病院長及び治験責任医師は、被験者の治験参加期間中及びその後を通じ、治験に関した臨床問題となるすべての有害事象に対して、十分な医療が被験者に提供されることを保証するものとする。また、治験責任医師又は治験分担医師は、有害事象に対する医療が必要となったことを知った場合には、被験者にその旨を伝えなければならない。
- 3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者に他の主治医がいるか否かを確認し、被験者の同意のもとに、主治医に被験者の治験への参加について知らせなければならない。
- 4 被験者が治験の途中で参加を取り止めようとする場合、又は取り止めた場合には、被験者はその理由を明らかにする必要はないが、治験責任医師又は治験分担医師は、被験者の権利を十分に尊重した上で、その理由を確認するための適切な努力を払わなければならない。
- 5 治験責任医師又は治験分担医師は、治験が何らかの理由で中止又は中断された場合には、被験者に対し速やかにその旨を通知し、被験者に対する適切な治療及び事後処理を行わなければならない。

(治験実施計画書からの逸脱等)

第20条 治験責任医師又は治験分担医師は、治験審査委員会の事前の審査に基づく文書による承認及び治験依頼者との事前の文書による合意なく、治験実施計画書からの逸脱又は変更を行ってはならない。ただし、被験者の緊急の危険を回避するためのものであるなど医療上やむを得ないものである場合又は治験の事務的事項(例：治験依頼者の組織・体制の変更、実施医療機関の名称・診療科名の変更、実施医療機関及び治験依頼者の所在地又は電話番号の変更、治験責任医師の職名の変更、モニターの変更)のみに関する変更である場合には、この限りではない。

- 2 治験責任医師又は治験分担医師は、治験実施計画書から逸脱した行為を理由のいかんによらずすべて記録しなければならない。
- 3 治験責任医師は、被験者の緊急の危険を回避するためその他医療上やむを得ない理由により治験実施計画書に従わなかったものについてのみ、病院長及び治験依頼者にその旨及びその理由を記載した緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する報告書(書式8)を直ちに提出し、その写しを保存しなければならない。
- 4 治験責任医師は、前項の逸脱について、逸脱又は変更の内容及び理由を記した緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する報告書(書式8)並びに治験実施計画書の改訂が適切な場合には、その案を、可能な限り早急に治験依頼者並びに病院長及び病院長を経由して治験審査委員会に提出して、本手順書第5条に準じてその承認を得るとともに、病院長の了承及び病院長を経由して治験依頼者の同意を緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する通知書(書式9)の写しで得なければならない。
- 5 治験責任医師は、治験の実施に影響を与え、又は被験者の危険を増大させるような治験のあらゆる変更を行ったときは、その理由等を記載した報告書を作成し治験依頼者に提出するとともに、病院長に提出しなければならない。

第5章 治験薬等の管理

(治験薬等の管理)

第21条 治験薬等の管理責任は、病院長が負うものとする。

- 2 病院長は、治験薬を保存・管理させるため治験薬管理者を指名し、また、治験機器を保管・管理させるため治験機器管理者を指名し、当院で実施されるすべての治験薬等を管理させるものとする。なお、治験薬管理者は必要に応じて治験薬管理補助者を指名し、また治験機器管理者は必要に応じて治験機器管理補助者を指名し、治験薬等の保存・管理を行わせることができる。
- 3 治験薬管理者、治験機器管理者は、治験依頼者が作成した治験薬の取扱い及び保存・管理並びにそれらの記録に際して従うべき指示を記載した手順書に従って、また、GCP省令、医療機器GCP省令を遵守して適正に治験薬等を保存・管理する。

- 4 治験薬管理者、治験機器管理者は以下の業務を行う。
 - (1) 治験依頼者から治験薬等を受領し、治験薬等受領書を発行する。
 - (2) 治験薬等の保存・管理及び払い出しを行う。
 - (3) 治験薬等管理表及び治験薬等出納表を作成し治験薬等の使用状況及び治験進捗状況を把握する。
 - (4) 被験者からの未使用治験薬等の返却記録を作成する。
 - (5) 未使用治験薬等を治験依頼者に返却し、未使用治験薬等返却書を発行する。
 - (6) 本条第3項の治験依頼者が作成した手順書に従い、その他、治験薬等に関する業務を行う。
- 5 治験薬管理者、治験機器管理者は、治験実施計画書に規定された用法・用量、使用方法に基づき、治験薬等が被験者に使用されていることを確認する。

第6章 治験事務局

(治験事務局の設置及び業務)

第22条 病院長は、治験の実施に関する事務及び支援を行う者を指名し、治験事務局を設けるものとする。なお、治験事務局は、病院長により設置される治験審査委員会事務局を兼ねることが出来る。

- 2 治験事務局は、病院長の指示により、以下の業務を行うものとする。
 - (1) 治験審査委員会の委員の指名に関する業務(委員名簿の作成を含む)
 - (2) 治験依頼者に対する必要書類の交付と治験申請手続きの説明
 - (3) 治験依頼者及び治験審査委員会が審査の対象とする審査資料の受付
 - (4) 治験審査結果通知書(書式5)、治験審査委員会の決定と病院長の指示が異なる場合の治験に関する指示・決定通知書(参考書式1)の作成及び治験責任医師及び治験依頼者への通知書の交付(治験審査委員会の審査結果を確認するために必要とする文書の交付を含む。)
 - (5) 治験契約に係わる手続き等の業務
 - (6) 治験終了(中止・中断)報告書(書式17)の受領及び交付
 - (7) 記録の保存
 - (8) 治験の実施に必要な手順書の作成
 - (9) その他治験に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援
 - (10) 本手順書並びに当院に設置した治験審査委員会の標準業務手順書の改訂(原則年に1回は見直しを行い必要に応じて改訂し、医療機関の長の承認を得る。)

第7章 業務の委託

(業務委託の契約)

第23条 病院長が治験の実施の準備及び管理に係る業務又は治験の実施に係る業務の一部を委託する場合には、文書により当該業務を受託する者との契約を締結し、双方が記名捺印又は署名し、日付を付するものとする。また、病院長は当該受託者が委託した治験業務を遂行しうる要件を満たしていることを保証するとともに、実施された治験業務及び作成されたデータの信頼性を保証する措置を講じる。

2 契約書に定める内容は以下のものとする。

- (1) 当該委託に係る業務の範囲
- (2) 当該委託に係る業務の手順に関する事項
- (3) 前号の手順に基づき当該委託に係る業務が適正かつ円滑に行われているかどうかを当院が確認することができる旨
- (4) 当該受託者に対する指示に関する事項
- (5) 前号の指示を行った場合において当該措置が講じられたかどうかを当院が確認することができる旨
- (6) 当該受託者が当院に対して行う報告に関する事項
- (7) その他当該委託に係る業務について必要な事項

第8章 記録の保存

(記録の保存責任者)

第24条 病院長は当院において保存すべき治験に係る文書又は記録の保存に際しては、それぞれの記録ごとに記録保存責任者を指名するものとする。

2 病院長又は記録保存責任者は、当院において保存すべき治験に係る文書又は記録が本手順書第25条第1項に定める期間中に紛失又は廃棄されないように、また、求めに応じて提示できるよう措置を講じるものとする。

(記録の保存期間)

第25条 病院長は、当院において保存すべき治験に係る文書又は記録を、(1)又は(2)の日のうちいずれか遅い日までの間保存するものとする。ただし、治験依頼者がこれよりも長期間の保存を必要とする場合には、保存期間及び保存方法について治験依頼者と協議するものとする。また、製造販売後臨床試験の場合には、3)に定める期間保存するものとする。

- (1) 当該被験薬、被験機器等に係る製造販売承認日(開発の中止若しくは治験の成績が承認申請書に添付されない旨の通知を受けた場合には開発中止が決定された若しくは申

請書に添付されない旨の通知を受けた日から3年が経過した日)

(2) 治験の中止又は終了後3年が経過した日

(3) 製造販売後臨床試験の場合、当該試験薬に係る再審査又は再評価が終了した日

2 病院長は、治験依頼者より前項にいう承認取得（製造販売後臨床試験の場合には再審査又は再評価の終了）あるいは開発の中止等に関する報告を開発の中止等に関する報告書（書式18）で受けるものとする。

第9章 検査機器の精度管理

（検査機器の精度管理）

第26条 病院長は、治験に係る検査において、検査が適切に実施されて治験に係るデータが信頼できることを保証するため、精度管理等の記録を作成又は入手し、保管管理するものとする。

第10章 本要綱の改訂

（本要綱の改訂）

第27条 本要綱を改訂する必要がある場合には、治験事務局が起案し、病院長の承認を得るものとする。なお、改訂箇所及び改訂理由を改訂一覧に記録する。

第11章 雑則

（その他）

第28条 本手順書に定めるもののほか、必要な事項は、病院長が別に定める。

附 則

本要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

本要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

本要綱は、平成21年6月15日から施行する。

附 則

本要綱は、平成24年5月8日から施行する。

附 則

本要綱は、平成24年6月27日から施行する。

附 則

本要綱は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

本要綱は、平成25年6月10日から施行する。

附 則

本要綱は、平成27年7月30日から施行する。

附 則

本要綱は、令和2年2月12日から施行する。

附 則

本要綱は、令和2年3月11日から施行する。

以 上

【徳島県立中央病院 治験事務手続要綱 補遺（平成24年10月1日施行）】

第一条 目的

本補遺は、「新たな「治験の依頼等に係る統一書式」について（医政研発0307第1号、薬食審査発0307第2号/平成24年3月7日）」に従い、治験関連手続き書類への押印を省略する際の手順を定める。

第二条 条件

押印省略は治験依頼者との合意を前提とする。

第三条 適応範囲

省略可能な押印は、第一条の通知で規定された書類における、「治験審査委員長」「実施医療機関の長」「治験責任医師」の印章とする。

第四条 責任と役割

治験審査委員長、実施医療機関の長並びに治験責任医師は、各々の責務で作成すべき書類の作成責任を負う。なお、「徳島県立中央病院 治験に係る標準業務手順書」、「徳島県立中央病院治験審査委員会標準業務手順書」、「治験分担医師・治験協力者リスト」又は治験施設支援機関との契約において、文書の作成及び授受等の事務的作業の支援又は委託内容を規定している場合は、規定の範囲において当該業務支援者に業務を代行させることができるが、最終責任は各文書の作成責任者が負うこととする。

第五条 記録の作成

作成責任者以外が事務的作業を代行する際は、代行者が作成責任者へ当該書類の案をメール送付し、その返信をもって作成責任者の指示とする。

書類が修正、変更等になった場合は、再度上記の手順を行う。

また、作成責任者の口頭指示で修正等を行った場合も、その内容を代行者が作成責任者へメールで送信し、その返信をもって作成責任者の指示とする。

いずれの場合も、メールを送付側で印刷し保存する。

第六条 記録の作成が不要な場合

作成責任者が直接手書きした書類及び押印、署名等で作成者が検証可能な場合、第五条の対応は不要とする。

第七条 書類の作成日

各種書類の確認と最終承認は当該書類の作成責任者とし、当該責任者が最終承認した日を書類の作成日とする。

第八条 書類の交付

文書の交付は手交、郵送を原則とする。

メールを用いる場合は、次のとおり交付及び保管を行う。

(1) 交付

印刷物を画像 PDF として送付する。

(2) 保存

交付された電磁的記録は、受取側が印刷し保存する。

なお、書式 8,12,13,14,15 は電磁的記録のやりとりを送付側で印刷し保存する。

また、改変有無の確認については、次の通りとする。

1) 提出先が複数なもの

必要に応じ直接閲覧で当該書類を比較することにより改変の有無を確認する。

2) 提出先が1カ所だけのもの

提出側が、提出先と同じものを保管しておくことで、必要に応じ直接閲覧で当該書類を比較することにより改変の有無を確認する。

附 則

本補遺は、令和2年2月12日から施行する。

以 上